

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	臨床画像および臨床情報を用いた Vision-Language Model による悪性黒色腫病期推定の有用性に関する後方視的研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 皮膚科 (職名) 助教 (氏名) 西原克彦
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028 年 6 月 26 日
対象となる方	2010 年 1 月から 2025 年 12 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち悪性黒色腫と診断された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、身体所見、画像データ (利用する試料) なし
研究の概要 (目的・方法)	悪性黒色腫（メラノーマ）は、進行度（病期）によって治療方針や予後が大きく異なる疾患です。近年、人工知能（AI）技術が急速に発展しており、画像と文章情報を同時に解析できる「Vision-Language Model (VLM)」と呼ばれる AI 技術が医療分野でも注目されています。 本研究では、愛媛大学医学部附属病院皮膚科で悪性黒色腫と診断された患者さんの診療情報および臨床画像を用いて、悪性黒色腫の病期を推定する AI モデルの開発および性能評価を行います。具体的には、診療録から得られる年齢、性別、病変部位、病悩期間、病変の大きさ、潰瘍や結節の有無などの臨床情報と、診療時に撮影された臨床画像を用いて AI モデルを構築し、その病期推定能力を解析

	します。また、AI モデルの推定結果を皮膚科専門医の評価結果と比較し、AI 技術の有用性について検討します。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院皮膚科 西原克彦 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5350